

日本経済の課題

～「例外状況」における資本の機能～



法政大学法学部 教授

水野 和夫

1. 21世紀を特徴づける「過剰・飽満・過多」

政治家や財界のリーダーは今回のロシアによるウクライナ侵攻や新型コロナによるパンデミック(注1)、リーマン・ショック(2008年)、9・11(2001年)など起きるたびに、「あってはならないこと」とか「想定外の事態だ」という。しかし、こうしたことが頻繁に起きるのがヤーコプ・ブルクハルト(1818-1897)

〈目次〉

1. 21世紀を特徴づける「過剰・飽満・過多」
2. 新しい資本主義とは一唯物論者の資本はゼロ金利によって成功裏に役目を終える
3. 急増する資金主義者の資本―「使ってこそ所有ということに意味がある」

のいう「歴史の危機」なのである。こうした発言がでてくるのは、政治家などには21世紀が「歴史の危機」だという認識が欠落しているからである。その結果前例を踏襲した対策しか打てず、事態を益々悪化させるばかりとなる。

「歴史の危機」とは既存のシステムが機能不全に陥って社会秩序の安定が維持できなくなり、かつそれにとって代るシステムがみえていない状況をいう。システムが機能しなくなると、カール・シュミット(1888-1985)のいう「例外状況」が現れる。シュミット(2007)は「例外は普遍を解明し、また例外自身をも解明する。普遍を学ばんと欲するものは、まず現実的例外に眼を向けよ。例外は普遍以上に万物を白日のもとに曝し出す」(p.10)という。現在の「例外状況」がなぜ生じているかを突き詰めていかないと、近代社会および資本主義の本質がわからない。資本主義でもっとも重要な概念は利息のつくお

カネ（資本）であり、ゼロ金利の意味を問うことに他ならない。資本の本質を問うことはゼロ金利の日本の課題なのである。

社会を構成する一つの経済は社会の下部構造であり、その上に政治構造が成り立っている。経済における「例外状況」とは合理的行動がなされていない状況をさし、国際政治における「例外状況」とは武力による現状変更である。両者に共通するのは暴力の顕在化である。元来資本の出自は暴力であり、その象徴がイギリスの資本家第一号といわれている海賊フランシス・ドレーク（1543頃－1596）である。現代においてナオミ・クラインのいう「ショック・ドクトリン」は資本の暴力性そのものであり、市場の暴力を利用して利潤を獲得することを厭わないのであるから、まさに「例外状況」である。

「ショック・ドクトリン」とは「壊滅的な出来事が発生した直後、災害処理をまたとない市場チャンスと捉え、公共領域にいつせいに群がるこのような襲撃的行為」（クライン[2011] pp.5－6）のことである。1973年の9・11であるチリ・クーデターは「ショック・ドクトリン」の第一号である。選挙で誕生した社会主義政権を米国支援のもとでチリ軍部が倒すという点で国際秩序の例外状況が起きた。それは経済構造を変えるための引き金だった。クーデター後米シカゴ学派はチリに乗り込み同国で新自由主義的な実験を行い、同国に混乱をもたらす一方で、米国資本は民営化で巨額の利益を得た。「ショック・ドク

トリン」は自然発生的なものではなく人為的に引き起こされた。

1970年代半ば以降、1970年代をピークに先進国の利子率が一斉に低下したときに、「実物投資空間」が「例外状況」に入った。投資家の期待する利潤率が得られなくなり、その対抗策として、労働市場の流動化を進め、「電子・金融空間」を創出しそこで利潤を極大化しようとしたのである。そのためのイデオロギーがグローバリゼーションだった。ヒト・モノ・カネが国境を自由に越えるプロセスだといっても、最も容易に国境を越えられるのは資本であるため、資本の自由化がワシントン・コンセンサスの最も重要な柱だった。

「歴史の危機」はどんな社会システムにおいても不動の中心概念が動いたときに起きる。ブルクハルト（2009）は「歴史の危機」はいつも外面的には「弾劾」（p.295）から始まるという。近代の中心概念は貨幣であり、貨幣が回転した資本である。その貨幣が1971年のニクソン・ショックで金（ゴールド）と切り離されて、ドルは浮遊し始めた。さらに西側世界の大統領の役を任じていたニクソンは弾劾をさけるために1974年に辞任した。

「歴史の危機」は「蒐集」の危機でもある。エルスナー／カーディナル（1988）によれば、「社会秩序それ自体が本質的に蒐集的」（p.11）だからである。「歴史の危機」はソビエト連邦を解体に追い込んだが、西側諸国では中産階級が滅亡の危機にある。元々西欧史は「蒐集」（注2）の歴史である。生産力を国家が独

占したソビエトは、その生産力をミサイルや戦車など軍事力の「蒐集」に注力し、民生品の生産を愚かにしてソビエト共産党は国民の支持を失った。資本の私的所有を認めた西側諸国は、市場メカニズムを錦の御旗に掲げる1%の人が富を過剰に「蒐集」し、99%の人々が犠牲となった。

社会秩序維持のための「蒐集」は必ず過剰になる。想定外のことが起き、その対応に失敗したときに社会秩序は崩壊する。「蒐集」は想定外に備えるがゆえにソントグ（2001）がいうように「過剰・飽満・過多」（p.81）となる。ソビエトの軍事力、資本主義国の資本はその象徴である。経済成長していれば、過剰な「蒐集」の弊害は顕在化しないが、経済成長にブレーキがかかるとシステムの矛盾が噴出する。「陸の国」ロシアは自国の社会秩序維持のために他国の土地の蒐集に走り、「海の国」の英米は中間層の犠牲に富の蒐集に専念する。

経済成長が鈍化すると、暴力装置の国家としての本性が現れ、資本の暴力性が社会を1対99に分断する。社会秩序安定のための「蒐集」が過剰となって社会秩序を崩壊させるのである。ロシア軍はウクライナ侵攻で民間人を殺しているが、西側の行き過ぎた不平等も貧しい人々を殺している（OXFAMの2022年1月のレポート“inequality kills”）（注3）。古代ローマの版図拡大、中世ローマ教会の信者獲得、それぞれの「蒐集」が極限に達した段階で古代・中世システムが崩壊した。資本

も同じなので、無限の空間と永遠の時間を前提として成り立つ近代社会が無限の資本を「蒐集」しようとするれば同じ運命を辿るであろう。

■ 2. 新しい資本主義とは —唯物論者の資本はゼロ金利によって成功裏に役目を終える

暴力性を抑制し、諸国民の富（GDP）を増やすために、人間の本性がどうあるべきかを考えたのがアダム・スミス（1723－1790）である。現在の危機の根底にはスミスのいう「共感」の喪失がある。グローバリゼーションが「共感」をなくしている。サプライチェーンが地球の隅々に張り巡らされれば、本社から遠い地球の裏側で何が行われているのかわからない。「企業網は企業によっては地球と月を往復するほどの総延長距離がある」（日本経済新聞、2020年3月26日）。だから、サハラ砂漠以南で児童労働（5－17歳）（注4）が増えたり、不平等による死者が増加していたりすることに企業経営者も資本家も気が付かないのか、あるいは見て見ぬふりをしているのか、痛みを感じないようにしている。

2022年1月に公表されたOXFAM報告書によれば、不平等が原因で毎日少なくとも2万1,300人（4秒に一人）が亡くなっている。その一方で、世界のトップ10のビリオネア（純資産10億ドル以上）はコロナ禍（注5）で純資産を8,206億ドルも増やした（注6）。1日あた

りに換算すると13億ドル、1秒に1万5,294ドル稼いでいた。その結果、2021年11月時点でトップ10の純資産は1兆5,123億ドルとなり、1ドル紙幣を積み上げると月の距離の半分になるという。このペースでいくとあと2年後にはドル紙幣で月への階段が完成することになる。

近代社会はグイッチャルディーニ（1483－1540）がいうように「私的な利益こそ、すべての人間を導く主である」（ラヴァル [2015] p.39）のだから、私的な利益の累積である資本が神（すべてを導く主）となった。アダム・スミスは、合理的経済人が「共感」をもっているという前提のもとで市場メカニズムという見えざる手に導かれて私的な利益を追求することが諸国民の富、すなわち公共の利益につながると主張した。だから、資本は救済の役割を担っている。しかし、19世紀になると、マルクス（2008）は需給関係について「イギリスの経済学者が言うように、（略）見えざる手によって幸と不幸を人間に振り分け、国々を作っては壊し、諸民族を興亡させる」（p.74）と糾弾する。21世紀になると1秒に1万5,294ドル稼ぐ人がいる一方で、4秒に一人は不平等が原因で亡くなっている。

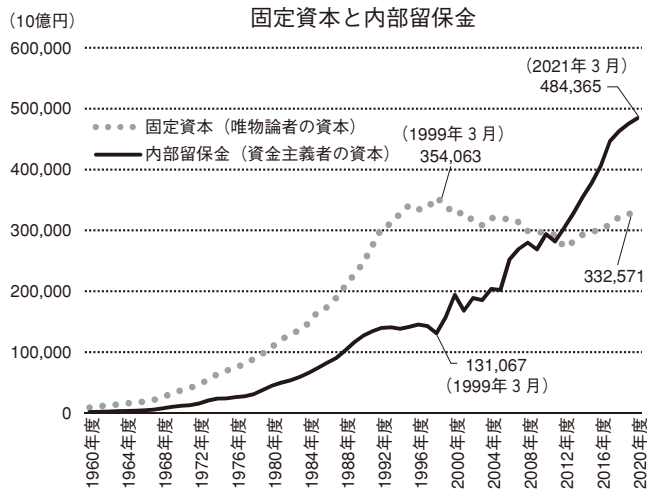
これが資本主義の実体である。2021年9月29日、岸田文雄自民党新総裁は党本部の記者会見で経済政策について「新しい資本主義を構築する」と述べた（注7）。しかし、岸田文雄総理のいう資本主義の資本の定義ははっきりしない。資本主義について語るとき、資本

の定義をはっきりさせる必要がある。そうしないと、何が新しく、何が古いかわからない。「新しい資本主義」（ポー [1996] p.237）（注8）という表現は、20世紀の初頭、多くの人々が「帝国主義」を指して使っていた。

資本の定義は200余り（注9）あり、資本主義の定義についても111（注10）ある。「あらゆる資本理論がその出発点において遭遇するところの問題は、いうまでもなく資本の本質をいかに見るかということである」（中山[1973] p.237）。しかし、異なる資本の定義から出発しても資本とは何かについて共通点を見出すことは困難であり、「われわれの採るべき道は（略）現実に経済過程において資本の果たす作用を吟味すること」（前掲書、p.238）だと主張する。

資本の作用とは資本の機能のことである。J・R・ヒックスは資本を二つの機能に分類した。一つは唯物論者の資本であり、企業の貸借対照表上、借方の資産の部にある固定資産に該当する。もう一つは資金主義者の資本で、貸方の資本の部に計上されている内部留保金である（図1）。前者の資本は財・サービスの生産力であり、迂回生産を通じて生活水準の向上に資する。後者はいつでも資金化が可能である資本をいい、内部留保金は資産の部の現金・預金と短期有価証券および投資有価証券に対応している。2020年度末時点における日本企業の内部留保金は484.4兆円に達し、資産サイドには現金・預金と有価証券合わせて599.9兆円（注11）が対応している（財

(図1) 二つの資本—21世紀になってバランスが崩れる



(注) 1. 固定資本 = 建設仮勘定 + その他有形固定資産 + 無形固定資産
 2. 内部留保金 = 利益準備金 + 積立金 + 繰越利益剰余金
 (出所) 財務省「法人統計年報」

務省「法人企業統計年報」。

ヒックス^(注12)のいう2つの資本は、マルクスの $G-W-G'$ でいえば、 $W \sim W'$ を繰り返すプロセスが唯物論者の資本機能であり、 $G \sim G'$ の繰り返しが資金主義者の資本機能となる。 W' と W の差分が生産関数を通じて長期的なGDPの増加率を決めることになり、 G' と G の差分が資本の増殖率となる。唯物論者の資本と資金主義者の資本はバブル崩壊直前の1990年度までは概ね同じ方向で推移していたため、唯物論者の資本をみていれば、資金主義者の資本の動向も予測できた。ヒックス(1985)によれば、「生産物がそれぞれ分離された労働、資本と技術の関数として示される生産関数を使用する人は、いずれにしても(略)唯物論者であることを告白しているの

である」(p.203)。

現在財(消費財)と将来財(投資財)の選択において迂回生産手段としての資本量を決めるのが利子率(時間プレミアム)である。日本やドイツのように利子率ゼロということは、将来財よりも現在財を選んだほうが効用は高いということを意味している。実際、内閣府の「国民生活の関する世論調査」がそれを裏付けている。今後の生活の見通しについて「同じようなもの」と答える人は64.4%に上っている(2021年)。1995年には67.2%でその後現在にいたるまで3人に2人がそう答えている。だからこそ、2007年以降になると今後について「毎日の生活を充実させて楽しむ」と答える人が59.8%(2007-2019年の平均)にも達している一方で、「貯蓄・投資な

ど将来に備える」と回答する人は3割台前半にとどまっている^(注13)。現在の生活の充実について「充実を感じている」と答えた人は74.1% (2019年) と高い。

固定資産は1999年度にピークをつけ、20世紀末には衣食住に関しては過剰供給が目立つほどに生産力を高め、唯物論者の資本機能は成功裏にその役目を終えたことになる。それを象徴しているのが、日本の国債利回りである。1998年8月21日に日本の10年国債利回りはイタリア・ジェノヴァが記録した世界最低利回り1.125% (1619年) を400年ぶりに更新した。ブローデル (2004) は当時のイタリアの超低金利の背景を次のように説明する。「これはジェノヴァに銀と金が殺到した時期にあたり、この時代には、銀と金は投資の手段を見出すのが困難である。資本がこれほど安く提供されたのは、ローマ帝国の衰退以来ヨーロッパの歴史において初めてであるが、これは並み並みならぬ革命である」(pp. 75-77)。

■ 3. 急増する資金主義者の資本 —「使ってこそ所有ということ に意味がある」

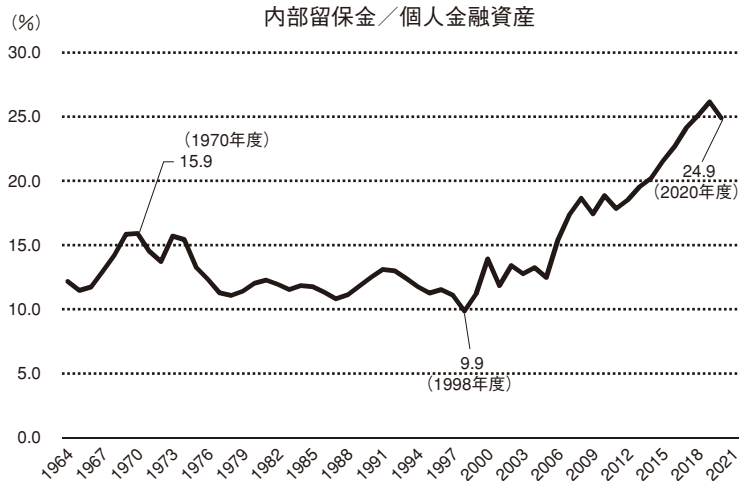
ラ・フォンテーヌ (1972) は「財産を失った守銭奴」(『寓話』1668年) のなかで、「使ってこそ所有ということに意味がある」(p.240) という。所有を資本と置き換えれば、ビリオネアトップ10の所有する純資産(資本)

は毎日100万ドル使ってようやく414年でなくなる。彼らは生涯使い切れないだけの資本を所有していることになる。『寓話』では墓地の土の中に埋めたお金は泥棒に盗まれ嘆き悲しむ守銭奴に向かってラ・フォンテーヌはそんな財産は石と同じだという。4世紀たっても同じことが起きている。ケインズは1930年に著した「わが孫たちの可能性」において、「共感」なき人が富を追求して不平等が人を殺すようになる事態を予想していたかのように、ビリオネアを社会から隔離することを提案している^(注14)。

資金主義者の資本はベケットの『ゴドーを待ちながら』の状態になっている。いつまでも資本は救済に乗り出さない。ベケットの演劇が「反演劇と」いわれるのは「近代の《演劇》たるものが枝葉の写実や物語性にこだわって演劇の本質を忘れた《非演劇》的なものであった」(高橋〔1986〕p.301) からであり、近代演劇と同じように、資本も「救済」を忘れて《反資本》となったのである。元来資本の蓄積にはドレークのように不正が伴う場合もあるが、資本蓄積が認められるのは、社会秩序維持の役目を担っていると皆が信じているからである。

西欧社会において「救済」の資本はノアの方舟が最初である。「ノアの方舟のノアがコレクター第一号であった。(略) ノアは世界を“save”する〔蓄える〕ことに情熱を賭けた」(p.7) のであり、「“save”はその最強の意味〔救済する〕を獲得する」(p.7) という

(図2) 「石」と化する資金主義者の資本



(出所) 財務省「法人企業統計年報」、日本銀行「資金循環統計」

のだから、saveの累計である資本は救済の機能を有しているのである。12世紀になると、「ノアの箱舟を世界に見立て、そこに人間の救済史の過程を象徴的に描いた記述」(甚野[2007] p.117)が見られるようになった。すなわち、船は資本であり、船を安全な港に寄港させるのが国家の役割となった。

こうした考え方は17世紀にジョン・ロック(1632-1704)に受け継がれて、彼によって確立された私的所有権が資本主義の発展に大いに寄与した。ロック(2010)は「正義(justice)と慈愛(charity)」は一体化した概念である。なぜなら「困窮する同胞にも、神の財産の剰余物に対する権利を与えたのである。(略)資産をもつ者が、そのあり余る財産の中から援助を与えることをしないで同胞を死滅させることは、いかなる場合にも罪である」

(注15) (p.91) からである。しかし、現実には「資産をもつ者」(富裕者)が直接支援することは困難であるから、その役割は国家が引き受けることになった。そのため、累進課税は正当化されるのである。

「石」と化した内部留保金が個人金融資産と比べて、著しく増加するようになったのは1999年度以降である(図2)。それ以前ではこの比率は10%~15%にとどまっていた。個人金融資産は唯物論の資本から生み出されたものであり(注16)、内部留保金は資金主義者の資本から創出される。両者の比率が安定していた20世紀までは概ね付加価値の分配において労働と資本の間でバランスが取れていたが、21世紀になってバランスが崩れ資金主義者の資本が唯物論者のそれを圧倒している。

「新しい資本主義」という前にこれまでの

20年間の著しく歪んだ分配構造を是正することから始める必要がある。歪んだ分配（労働者と預金者への未払い金）のは累計で154.7兆円と試算される^{（注17）}。484.8兆円から154.7兆円を控除すると、内部留保金は329.7兆円となり、対個人金融資産比で16.9%となる。それでもこの比率は過剰流動性の時代だった1970年代前半よりも高い。154.7兆円を本来の所有者である労働者と預金者に返還することが日本の取り組むべき課題のまず第一歩である。株主の所有権を侵害するという意見もあるが、ロックの所有論はそこまで認めていない。

法律の解釈をめぐる争っていると、時間ばかりが経過し、分配は益々歪むばかりである。そこで、企業の「石」と化した手元流動性を国債に置き換えて、資金化し非正規労働者や生活困窮世帯に還元するのが現実的である。すでに銀行預金のおよそ半分が国債に置き代わっていても何ら問題は生じていないのは、預金者がすぐに現金化しようと思っていないからである。企業の株主のものである内部留保金が資産サイドで国債に置き代わっていても、企業が現金化したいときに市場で売却すればいいだけである。

スミスの経済学はフランス革命などをへて絶対君主の臣民を自由な市民に解放した。しかし、その市民がブルジョア化し、21世紀にはビリオネアが絶対君主化してしまった。ゼロ金利社会においてケインズは流血を伴わないで社会改革ができるという。ケインズ

（1995）は、「資本主義の利子生活者的な利子生活者の側面を、それが仕事を果たしてしまうと消滅する過渡期な局面と見ている」（p.379）し、ヒックス（1951）は「資本主義体制という言葉を含む自由企業の体制の意味に用いるならば、資本主義体制ごときものの長い寿命を当てにすることができるとはわたくしには思えない」（p.446）という。ゼロ金利下の日本の課題は「新しい資本主義」ではなくポスト資本主義である。

〔参考文献〕

- ・エルスナー、ジョン／カーディナル、ロジャー編（1998）『蒐集』、原書1994、高山宏／富島美子／浜口稔訳、研究社
- ・クライン、ナオミ（2011）『ショック・ドクトリン 惨事便乗型資本主義の正体を暴く』原著2007年、幾島幸子・村上由未子訳、岩波書店
- ・ケインズ、ジョン・メイナード（1931）「わが孫たちの経済的可能性」（1981）『ケインズ全集 9 説得論集』宮崎義一訳、東洋経済新報社
- ・———（1995）『雇用・利子および貨幣の一般理論』原著1936年、塩野谷祐一訳、東洋経済新報社
- ・ケリー、ジョン（2020）『黒死病 ベストの中世史』原著2005年、野中邦子訳、中公文庫
- ・シュミット、カール（2007）『政治神学』原著1934、慈学社、長尾龍一訳『カール・シュミット著作集Ⅰ』
- ・甚野尚志（2007）『中世ヨーロッパの社会観』講談社学術文庫
- ・ソントグ、スーザン（2001）『火山に恋して ロマンズ』原著1992、富山太佳夫訳、みすず書房
- ・高橋康也「解説」（1986）『ベケット戯曲全集 2』安堂信也・高橋康也共訳、白水社
- ・中山伊知郎（1973）『資本の理論』（中山伊知郎全集

- 第四集) 講談社
- ・ヒックス, ジョン・リチャード (1951)『価値と資本 II』原著1946年、安井琢磨、熊谷尚夫訳、岩波現代叢書
 - ・—— (1985)『経済学の思考法—貨幣と成長についての再論—』原著1977、貝塚啓明訳、岩波書店
 - ・ブルクハルト, ヤーコプ (2009)『世界史的考察』原著1868年、ちくま学芸文庫、新井靖一訳
 - ・ブローデル, フェルナン (2004)『地中海〈普及場〉Ⅲ 集団の運命と全体の動き 2』原著1966年、浜名優美訳、藤原書店
 - ・ヘルマン, ウルリケ (2015)『資本の世界史 資本主義はなぜ危機に陥ってばかりいるのか』原著2013年、猪俣和夫訳、太田出版
 - ・ポー, ミッシェル (1996)『資本主義の世界史』原著1981年、筆宝康之・勝俣誠訳、藤原書店
 - ・マルクス, カール (2008)「ドイツ・イデオロギー」『ドイツ・イデオロギー (抄) / 哲学の貧困 / コミュニスト宣言』マルクス・コレクションⅡ、今村仁司・三島憲一他訳、筑摩書房
 - ・水野和夫 (2022)『次なる100年 歴史の危機から学ぶこと』東洋経済新報社
 - ・ラ・フォンテーヌ, ジャン・ド (1972)『寓話 (上)』原著1668年、今野一雄訳、岩波文庫
 - ・渡邊裕一 (2020)『ジョン・ロックの権利論 生存権とその射程』晃洋書房

(注1) 2019年末、中国武漢で最初の新型コロナウイルス感染者が発病し、その後パンデミックを引き起こしたことは「想定外」であって、事前に予想できなかったという意見もある。しかし、米ハーバード大学で公衆衛生学の権威であるジョナサン・マン教授は1995年の時点で次のような警告を発していた。「エイズこそ恐ろしい新時代の幕開きだと警告し、『この時代の歴史を特徴づけるのは新種の病気が次々と登場することだ』と予測した」(ケリー [2020] p.12)。

(注2) 「資本主義とキリスト教は物質的なものに向

かうのと、物質を越えた次元に向かうのと、蒐集の二つの極端を示している」(エルスナー／カーディナル [1988] p.11)。

(注3) 2021年のOXFAM報告書は“the inequality virus”だった。

(注4) サハラ砂漠以南における2012年に5,900万人だった児童労働は2020年には8,660万人に増加した(ILO調べ)。

(注5) 2020年3月から2021年11月までの621日間。

(注6) 2022年のOxfam報告書によれば、2021年11月時点でビリオネア(2,660人)の純資産は13兆7,660億ドル。うち、トップ10の純資産は1兆5,123億ドル。

(注7) 翌2022年1月になって月刊「文藝春秋」(2月号)で「私が目指す『新しい資本主義』のグランドデザイン」と題する緊急寄稿を発表した。

(注8) ポー (1996) は「新しい資本主義」である「帝国主義とは、実のところ、蓄積の限界を拡張する一手段である」(p.238)とのオットー・パウワーの言葉を紹介している。

(注9) 中山 (1973) によれば、「区別しうべき資本の概念はすでに200にあまる」(p.23)。

(注10) ヘルマン (2015) は「1918年当時の経済の文献には、資本主義について111項目の定義」(p.294)があるという。

(注11) 現金・預金が221.3兆円、短期有価証券が7.3兆円、長期有価証券が336.0兆円である(2019年度末、内務省「法人企業統計年報」)。

(注12) ヒックス (1985) は「アダム・スミスのみならず、イギリスのすべての(あるいはほとんどすべての)古典派経済学者は、資金主義者であった。マルクスも資金主義者であった。(略) イギリスやアメリカにおける多くの経済学者は、唯物論者となった。もちろん、唯物論は、今日『新古典派』と呼ばれる立場の特徴」(p.203)だった。

(注13) 「毎日の生活を充実させて楽しむ」と答えた人の割合が「貯蓄・投資など将来に備える」を上回ったのは1986年である。2021年9月の調査では、新型コロナウイルスの影響が長期化しているので、「貯蓄や投資など将来に備える」と答えた人の割合は45.2%

と、2019年の32.9%から大幅に上がった。一方、「毎日の生活を充実させて楽しむ」は54.0%に低下した(2020年はコロナの影響で調査中止)。

(注14) 「富の蓄積がもはや高い社会的重要性をもたないようになると、(略) 財産としての貨幣愛は、ありのままの存在として、多少いまいましい病的なものとして、また、震えおののきながら精神病の専門家に委ねられるような半ば犯罪的で半ば病的な性癖の一つとして、見られるようになるだろう」(ケインズ [1981] p.330)。

(注15) ロック (2010) がここでいう「罪」(p.91) について、渡邊 (2020) は、ロックの『寛容に関する書簡』の記述をもとに、「ロックはここで慈愛の義務の不履行を『犯罪』ではなく、それとは区別された『罪』だという。ロックは、この『罪』を為政者(政治権力)が処罰すべき事柄ではないと言う。」(p.130)。

(注16) $W - W'$ の過程で生み出されGDP (=GDI) の一部が賃金に分配され、その一定割合が貯蓄となる。それが累積したものが個人金融資産である。

(注17) 試算の根拠や前提は水野 (2022)、p.496の図表 3 - 34参照。

